

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 20 日現在

機関番号：14101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380153

研究課題名(和文) 現代日本政治ナショナリズムの特色及び普遍性 「日本会議」における宗教系組織

研究課題名(英文) Peculiarity and universality of contemporary Japanese political nationalism - Organizations of religious obedience inside the "Japan Conference"

研究代表者

T Guthmann (GUTHMANN, Thierry)

三重大学・人文学部・教授

研究者番号：30335111

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：当研究は現代日本における最大の国家主義政治圧力団体である日本会議に注目した。結果、一部の市民の間に流れている国家主義的な心情を詳細に分析することができた。また、日本会議国会議員懇談会の役員の取材を通じて「保守」と言われる政治家の国家主義的な心情も測ることができた。併せて、日本会議と活動している幾つかの新興宗教の動機及び国家主義的な信念も明らかになった。加えて、日本会議を初め日本の政治右翼にとって、宗教的な要素を抜きにした国家主義的活動は有り得ないという結論にも至った。総じて海外との比較を通じて現代日本政治ナショナリズムの特色及び普遍性について新しい説を提供することができたと思われる。

研究成果の概要(英文)：The main focus of this research has been the Japan Conference which is the largest nationalist lobby of contemporary Japan.

As a first result, I produced a detailed analysis of the nationalist feeling that is shared among part of the Japanese citizens. Through interviews of members of the parliamentary committee board of the Japan Conference, I also evaluated the nature of the nationalist feeling that drives the politicians that are commonly called "conservatives". As another result, the motivations and nationalist convictions that are pushing a certain number of new religions to cooperate with the Japan Conference also became clear. Moreover, I came to the conclusion that in the case of the Japanese right wing, nationalist activities that would exclude religious elements are unthinkable.

As a general result, and through comparison with other countries, I proposed new theories concerning the peculiarity and universality of contemporary Japanese political nationalism.

研究分野：政治学

キーワード：日本政治 ナショナリズム 日本会議 宗教系組織

## 1. 研究開始当初の背景

平成18年度と19年度、科学研究費の予算(若手研究B)を利用して「神道政治連盟」という神社本庁圧力団体と政界の関係を検討した。その時、報告者は、「日本会議」の存在を初めて知り、神道政治連盟が「日本会議」という組織の一員であるということも判明した。神道政治連盟と同様の右翼的な主張を行っている組織であり、神道政治連盟よりはるかに大きな組織であるということも分かった。また、「日本会議国会議員懇談会」も存在しており、多くの自民党の議員に加えて民主党の議員の何人かもメンバーであり、幅広い政治的な影響力を持っている組織であると推測された。それに加えて、日本会議には新興宗教団体がいくつか入っており、組織の資金源になっていると思われる。現代日本における政治ナショナリズム及び宗教と政治の関係を専門にしている報告者にとって、日本会議というこのような組織は当然研究に値する対象だと考えるに至った。またそこで現代日本の政治ナショナリズムの底流が流れているのではないかと考え、日本会議の研究を始めた。

## 2. 研究の目的

この研究には2つの目的があった。

(1) 主目的：現代日本における政治ナショナリズムという現象の全体像を把握した上で国際比較を通じてその現象の特色及び普遍性を特定する。思想・イデオロギー及び組織・構造という2つの観点から政治ナショナリズムを分析する予定である。そのための切り口として「日本会議」という日本で最大の国家主義的圧力団体の網羅的調査を行う。

(2) 副目的：「日本会議」は、個人及び団体を構成員とする連盟組織である。その構成員の中でも新興宗教や神道系組織は重大な役割を果たしていると思われる。これらの宗教系組織の日本会議で果たす役割の分析を通

じて宗教とナショナリズムの関係について新しい説を提供する。

## 3. 研究の方法

(1) 日本会議の思想・活動に関して報告者がまとめたデータを踏まえて、日本会議関係者とのインタビューを実施する。日本会議自体の代表に限らず、当同盟に所属している宗教系組織を初め、できる限り数多くの加盟団体の代表と面会する。

(2) 日本会議国会議員懇談会の国会議員とのインタビューを数多く実施する。

なお、国家主義・愛国主義というような「心情」に関わる敏感なテーマについてもインタビューが及ぶため、質問する側が日本人である場合、質問を受ける側は容易に感情的になることが予想される。この点報告者の場合、日本との歴史的関係が薄いフランスの出身であるため、インタビューされている者にとっては冷静さを保ちやすい人間関係だと考えられる。

(3) 本研究の主たる対象は国内のナショナリズムであるが、国外のナショナリズム及び宗教と政治に関係している文献情報も集める。これらの資料は日本の事例における独自性や普遍性の把握に役立つと思われる。

## 4. 研究成果

戦後日本の場合は主に教育や文化ナショナリズムが研究対象であった。学校の教科書における近代史の紹介・解説の仕方、いわゆる教科書問題が代表的なテーマであった(家永三郎、Arnaud Nanta)。また、文化ナショナリズムに関しては日本人論や日本人論から生まれた思想がその重要な研究対象であった(吉野耕作、Yoshio Sugimoto, Harumi Befu)。しかし、政治家、政治圧力団体によるナショナリズムに関係する研究(以降、政治右翼の研究)はおろそかにされて来た。内閣総理大臣による靖国神社参拝問題に関す

る研究(高橋哲哉、John Breen)が多少なされたものの、幅広い検討は日本国内・外ともにほとんどされて来なかった。

そこで、当研究は、日本最大の国家主義政治圧力団体である日本会議に注目した。結果、一部の市民の間に流れている国家主義的な心情を詳細に分析することができた。また、日本会議国会議員懇談会の役員の取材を通じて「保守」と言われる政治家の国家主義的な心情も測ることができた。具体的に、現時点、当研究の成果は主に以下の4つである。(1)まず、日本会議という政治圧力団体の正体を詳細に把握することができた。すなわち、その団体の思想は次の4つの主張から構成されている。

皇室の尊厳及び天皇を中心とした国家観・歴史観の普及を求める

所謂「自虐史観」と訣別し国民が誇りを持つ歴史教育を行う

憲法第9条の改正を通じて日本の再軍備を求める

中国・韓国・ロシア等との領土問題に関して毅然とした防衛政策を求める

そして、政治家(国会議員、地方議会議員等)に対する粘り強いロビー活動及び一般市民に対する徹底した啓蒙活動を通じて、当団体の主張が政策や法律において反映されるように常に行動しているということも明らかになった。

(2014年のフランス日本学学会研究大会における研究発表)

(2)日本会議を初め、日本の政治右翼の外交に関する見解も把握できた。二元論的な世界観に基づいて好意的及び敵意を持った国に世界の国々を分けているということが分かった。所謂「親日国家」と「反日国家」という分け方である。日本の政治右翼の世界観の構造を概ねまとめれば親日国家の先頭に立っているのはアメリカ合衆国であり、そのアメリカは、最大の反日国家だとされている

中国の脅威から日本を守ってくれる。しかしながら、現在、アメリカは今まで果たしてきた「世界の警察」という役割から手を引きつつある。それに合わせて憲法第9条を改正した上で日本の再軍備が必要であると日本の政治右翼は主張している(Diplomatie Affaires stratégiques et relations internationales という雑誌に掲載された論文を参照)。

続いて、本研究の副目的であった宗教とナショナリズムの関係の解明に関しては次の2つの成果を挙げられる。

(3)どのような理由で数多くの新興宗教が、日本会議と協力して国家主義的な政治活動を行っているのかという疑問に関しては次の結論に至った。その理由は比較的簡単であり、日本の政治右翼とこれら新興宗教は幾つかの気持・信念を共有しているからである。すなわち、皇室及び天皇に対する敬愛の気持、国家及び戦没者に対する崇拝の気持、日本を守るための再軍備の意志、現代社会における強い個人主義的な傾向に対する道徳的な批判といった気持・信念である(Monde chinois nouvelle Asie という雑誌に掲載された論文を参照)。

(4)日本の政治右翼の信念は宗教的な要素を基盤にしているため、当然その政治運動の世俗化の障害になっているという点も明らかになった。実際に、天皇や靖国神社の戦没者の崇拝を通じて現在でも国家神道は存続し、日本会議を初め、日本の政治右翼は国家神道の思想的な後継者であり、宗教的な要素を抜きにした国家主義的な活動は現代日本の場合有り得ないと言える。

なお、今後、以上の4つの成果を踏まえて『日本会議と現代日本の政治ナショナリズム』という学術書を執筆する予定である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

Thierry Guthmann, Les milieux nationalistes japonais : une vision manichéenne des relations internationales, *Diplomatie Affaires stratégiques et relations internationales*, 査読無, numéro 78, janvier-février 2016, 42-45

Thierry Guthmann, Religion et nationalisme dans le Japon contemporain : les nouveaux mouvements religieux au sein de la Conférence du Japon, *Monde chinois nouvelle Asie*, 査読無, numéro 42, 2015, 74-83

〔学会発表〕(計 2 件)

Thierry Guthmann, Dynamiques de l'extrême-droite japonaise au 21<sup>ème</sup> siècle : la Conférence du Japon, 11<sup>ème</sup> Colloque de la Société française des études japonaises (フランス日本学学会研究大会), パリ(フランス) 2014 年 12 月 12 日

グットマン・ティエリー、現代日仏米間の比較を通じた宗教と政治の相互関係モデルの構築、日本政治学会研究大会、北海学園大学(北海道、札幌) 2013 年 9 月 16 日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

T Guthmann (GUTHMANN, Thierry)  
三重大学・人文学部・教授  
研究者番号：30335111

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：